

本を選ぶ

NO.493 2026年(令和8年)6月20日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

<https://www.las2005.com>

本社 〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL=03-6908-4643

●<ろん・ぼわん>女性製本家の歴史

●選書の法則：S. R. ランガナタンからの
187のメッセージ(33)



●●●●●ろん・ぼわん●●●●●

女性製本家の歴史

日本で西洋風の手製本を習っている人は圧倒的に女性が多く、大勢のプロアマチュアが参加する製本工芸展でも出品者の大半は女性である。欧米でも当然のように女性製本家と男性製本家が肩を並べて活躍しており、今さら性別を持ち出して何か言うのがばからしいほどだ。しかし、西洋の製本の長い歴史の中で、女性製本家に関する史料はきわめて少ない。製本は基本的に男性の仕事とされ、女性は主として印刷した紙を折り、かがる作業に従事するのみで、本物の製本家、製本職人になるのは難しかった。イギリスの製本史家マリアン・ティドクームの『女性製本家の歴史 1880-1920 (Women Bookbinders 1880-1920)』(Oak Knoll Press & The British Library, 1996) は、19世紀末から20世紀初頭のイギリスの女性製本家に焦点を当てた貴重な研究書である。これを読むと、近代の女性製本家がどのような歴史的背景の中から生まれてきたかがよくわかる。

19世紀イギリスの手製本は、今日的な意味での芸術や工芸というよりも、均一な質の仕事を次々に手早く仕上げる職人の世界という面が強かった。製本所では多数の労働者階級の女性が紙折りやかがりなどの補助的な作業に低賃金で従事していたが、それ以上高度な仕事は任せてもらえなかった。伝統的な徒弟制度の中で女性が製本の修業をすることは認められていなかった。

だが19世紀末、手仕事の復権を謳うアーツ・アン

ド・クラフツ運動の影響で、手製本に興味をもつ中流・上流階級の女性が増大した。女性も製本を学べる美術工芸学校が登場し、特にコブデン=サンダースンやダグラス・コッカレルらアーツ・アンド・クラフツ系の製本家は、自分たちの工房で女性にも積極的に製本を教えた。

ただ、訓練期間が短く、経験も乏しい女性たちの製本技術は一部を除くと必ずしも高いとはいえなかったようだ。装丁のデザインだけ手がけて製本と箔押しはプロの職人に任せる場合も少なからずあり、装丁に使う手の込んだ刺繍や革細工だけを制作したり、表紙に張るヴェラム(子牛皮紙)に絵を描くのを専門とする女性たちもいた。しかし、過去の製本の伝統に縛られていないぶん、女性製本家のほうがより自由で実験的で清新なデザインを創り出すことができたのも事実である。

『女性製本家の歴史』は、この時代の女性製本家の活動を概観した本だが、なかでも卓越した仕事をしたサラ・プリドロー、キャサリン・アダムズ、シビル・パイという3人の著名な製本家の生涯と仕事を詳しく紹介している。当時は一般に、苦勞して製本を習っても、結婚、病気、死、戦争などでキャリアの途絶を余儀なくされる女性が珍しくなかった。女にとって製本を習うこと、続けること自体が非常に困難な時代だった。女性製本家たちが残した数々の美しい作品の裏には、ただならぬ困難と秘められた思いがこめられていることに気づかされる本である。(市川恵里：翻訳者)

*264号(2007年5月20日発行)の再掲載です

選書の法則： S. R. ランガナタンからの 187 のメッセージ (33)

吉植 庄栄

33. 選書業務で使う情報源・上

『図書館選書論第2版』の内容を、ランガナタンがよく使った架空の対談方式で紹介している。第一～五法則に基づく選書の考え方の紹介の後、全法則の主張が対立して内輪もめするくだりまで紹介。今回からは選書で実際使う情報源について紹介していく。

【登場人物】

○ランガナタン：図書館界のビッグスター、S. R. ランガナタン(1892-1972)先生。引き続き選書論を、今回から具体的な話中心に解説する。

○第一法則くん～第五法則くん：ランガナタンの著作『図書館学の五法則』に出てくる各法則。内戦も終わって、今回から気楽に参加。

○今回から何をしますか？

ランガナタン（以下「ラ」）：前回までは、第一法則くんから第五法則くんまでの主張の対立に対し、どのように考えるべきかを議論してきた。

第一法則くん（以下「一」）：白熱して3回の割り当てだったところ、4回もかかってしまいました。

第二法則くん（以下「二」）：特に最後の「科学的手法の螺旋」で選書を考える回は、連載一回分をかけて十分に時間と字数を費やしましたね。

ラ：そうだな（苦笑）。想定を超えて盛り上がってしまった。とはいえ、僕の主要著作でもある『図書館学の五法則』第2版でも大きくページを割いている内容なので、正直言えば丁寧な説明をしたかったのだ。

第三法則くん（以下「三」）：とても難しい概念ですが、物事の考え方全てに通じるものだから、頑張って勉強しました！

ラ：えらいぞ。さてそこで今回からは何をしよう？

第四法則くん（以下「四」）：え！？師匠、もしやノーブランなんで？

第五法則くん（以下「五」）：いやあ、普通に『図書館選書論 第2版』の内容をこれまで通り紹介すれば良いのではないのでしょうか？この場合、あんまり飛躍したり成長したりしなくて良くて、テキストに忠実に進めて良いかと思いますが。

一：何か問題でも？

ラ：そうだ。実はずっと悩んでいたのだ。僕の癖で、著作には最初に理論的なことを書き、最後は現場の仕事の具体的なマニュアルをイメージして執筆していた。

二：そこが先生の「実践的な哲学者」って言われるゆえんですよね。空理空論に終始せず、現在の図書館の職場では具体的にどのように仕事をするかという事に繋がっていますよね。

ラ：その通り。これは僕が図書館長として、現場の改革や発展を目指すことを念頭に執筆してきたという背景が強い。現場のスタッフやこれから現場を支える次世代には基本的な理論を押さえた上で、実際の仕事を具体的にどのようにするかについても指南したかったからだ。

四：言ってることは分かったんですけど、では今回から何をするかでーのと、いってーぜんてーどんな関係があるんで？

ラ：分からないか？ではそこで、この『図書館選書論 第2版』の構造をよく観察してみることにしよう。

一～五：はーい！

○『図書館選書論 第2版』の終盤って何が書かれているの？

三：この本の目次ってこんな感じでしたね。

『図書館選書論 第2版』の目次

Part A 序文

Part B (『五法則』から) 選書へのメッセージ

Part C アプローチの仕方

Part D 『第一法則』と選書

Part E 『第二法則』と選書

Part F 『第三法則』と選書

Part G 『第四法則』と選書

Part H 『第五法則』と選書

Part J 五つの法則の内戦

Part K 選書業務で使う情報源

Part L 選書業務の流れ

ラ：おおお！第三法則くん、いい仕事だ。ではこれ

にてこの本の構造を観察してみよう。

一：振り返ると最初はこの本の執筆の経緯 (Part A)、次に187の選書に関するメッセージ (Part B) が紹介されます。

ラ：そうだ。

二：そして我々、五法則それぞれに関わる選書のメッセージを紹介してきた (Part C~H) 訳です。で、五法則くんまで解説してから前回まで我々の主張の対立をテーマとしたPart Jの内容に取り組んで終わったところです。

ラ：その通り。ここまでの連載で『図書館選書論 第2版』の大半の紹介が終わった訳だ。で、残りはPart KとLであるが、ここで問題。先ほどの話の流れで、第三法則くん、今我々が直面している課題を解説してくれたまえ。

三：つ、つまり・・・具体的な業務の内容に入ったってことでしょうか？それも当時の具体的な業務なので、この現代にそのまま紹介してもあんまり意味が無いと・・・。

ラ：そうだ、その通り！当時 (1960年代) の具体的な業務の指南書なので、この連載で直接紹介するのは、はばかれるということだ。

四：おれっちのパート、つまりPart Gでもそうだったよな一、ちくしょうめ。結構、今のことに置き換えての紹介が苦しかったぜ。

ラ：うむ、第四法則くんのところはこの問題が顕著だった最初の箇所だ。時間を節約するという点で、当時と現代では大分技術が異なる。相当な部分、現代のことに意識して紹介したものだ。

五：では、当時から成長した今のことも踏まえて紹介して行けば良いと思いました。

ラ：うむ、そこが妥当なところかな。ということで、現代の具体的な内容も触れながら、紹介していこう。

○選書の情報源

一：それではまずPart Kの概要を教えてください

ラ：分かった。具体的な選書の情報源の紹介じゃ。選書業務の心構えのまとめ的なことも述べている。

二：情報源はあとでじっくりやるとして、後者は例えばどんなことですか？

ラ：まず選書担当者の必要な知識についてだ。これ

には2つあって、1つ目が選書理論の知識、2つ目が選書ツールの知識である。熟練した選書担当者は、この情報源の知識にも長けているのだ。

五：なるほど。ではそこで選書の情報源とはどのようなものがあるのか、是非教えてください。

ラ：うむ、まず情報源に代表的なものは次の3つがある。

- ・利用者のリクエスト
- ・新聞、雑誌の書評
- ・書誌

三：ふむふむ。

ラ：まずは利用者のリクエストだが、これは利用者の秘めたる思いを知る方法という内容で紹介した回 (391号) と大きく関係している。

二：このテーマは、私のところで扱った内容です。図書館利用者の皆さんが表に出さない、秘められた読みたい本の情報をどう収集するかを考えましたよね？

ラ：そうだ。その場合はリクエストを取ると良い、という話だったな。

二：はい、リクエストを所定のカードやリクエストのノートに書いてもらうとか。また、利用者さんらも意識していない読みたいものも先読みして選書に活かす話なんかもありましたよね？

ラ：その通り。年中行事やオリンピックのような、予定されていることから予想するという方法を教えたぞ。

二：そうでした、そうでした。

ラ：次は、新聞、雑誌の書評だな。図書館で契約している新聞や雑誌には多かれ少なかれ書評欄がある。これは選書にとって重要な情報源であるのだ。

一：この件は私の箇所で触れました。

ラ：そうだったな。第一法則くんの内容はこの連載の萌芽期だったので、うんと懐かしいのお。

一：はい。一巡したら、是非もう一回振り返って頂きたいものです。

ラ：うむ。さてそれでだ、書評は大事とは言ったものの、新刊の出版からこの書評が出るまでにはタイムラグがある。

四：はあーっ！？まどろっこしーってえの。師匠。そういう時間がかかるのは、いやになっちゃうって。で、それなのに重要なんですか？

ラ：そうだ、使いようだよ。例えば、選書するか迷っている本について、この書評で最終的に判断を決

めるとか、新刊図書の選書業務で漏らしてしまったものを再度見直す時になんか有効なのだ。

四：なるほどねー！そいつなら、てーしたもんだ。使えるってもんよ。

ラ：そうそう、とにかく使いようなのだ。で、この書評の節(KC)では見えそうな資料のリストを14ページにわたって掲載している。世界中の定期刊行物を集めて、どのような頻度で刊行されるのか、そして全体の記事に占める書評の数や比率もリストに掲載しているぞ。

五：これって本当に詳細なリストですよ。おまけにインドのみならず、イギリスやアメリカ、当時のソ連の資料まで、そして学問の様々な分野の資料が掲載されています。

ラ：そうだ。結構網羅的だろ。それに、新刊本が刊行されてからどのくらいのタイムラグで書評が載るかも示している。

一：素晴らしいリストですね！当時の現場ではよく利用されたのではないかと思います。

○奥深かった以前の書誌の世界

ラ：次に書誌に話を進めよう。書誌には、継続して刊行されるものと1回限りで刊行されるものがある。特に継続して刊行されるものも次の2つに分けられる。

- ・単なる本のリスト
- ・内容の要約が載っているもの

これらは前者を「書誌」と言い、後者を「抄録」と言うな。

一：では最初、書誌のことに絞って教えてください。
ラ：分かった。まず書誌を考える上で、次のような本に携わる人の観点を考えよう。

- ・製作者(本の内容)：著者
- ・製作者(物理面)：印刷所、製本所、政府
- ・配給者(物理面)：出版社、書店、愛書家
- ・配給者(本の内容)：選書団体、図書館目録、レファレンス担当司書
- ・消費者：著者、読者

二：本に携わるすべての人たち勢ぞろい！って感じですね。

ラ：そうだ。これらを背景に、次のような書誌が存在する。

- ・著者目録
- ・印刷業者や製本業者の書誌、著作権者リスト
- ・出版社や書店の販売カタログ、書誌の書誌
- ・選書リスト、図書館目録、主題別書誌
- ・読書リスト

一：いっぱいありますねー！それぞれ存在意義があって、様々な角度から調べられそう！

ラ：その通りだ。それにこれらの書誌たちは、現在インターネット上に移行したものも多いが、まだ継続して刊行されているものもあるぞ。

五：なるほどー！あります、ありますっ！確かにそうですね！！では、現代でこれらの情報源はどう成長し、進化しているか教えてください。

○現代の選書業務での情報源

二：おっしゃる様に確かに出版社や書店の販売カタログは未だに印刷されて、図書館の事務室に届きますよね。

ラ：その通り。インターネットだけではなく、紙のチラシやカタログを一覧することで選書の情報源にするというのは、図書館の業務の変わらぬ一面を示しているのかもしれないな。

三：一方インターネットを介して様々な出版社や書店の本が検索でき、発注も可能となりました。タイトルが決まっている時には、とても便利です。

二：また個別の出版社や書店のウェブサイトをいちいち当たるのではなく、例えばAmazonのような巨大なオンライン書店で探す手もあります。

四：思い立ったら検索しその場で発注できるから、こいつは本当に便利になったもんだよね、師匠！

ラ：うむ、そうだ。しかしオンラインのサービスと紙のカタログ・チラシはやはり両輪である。チラシやカタログを眺めていると意外な出会いがあるものだ。一覧性と偶発的な発見という利点があるので未だに残っているのだろう。

五：成長しても変わらぬものがある、という先生のお言葉通りですね！

ラ：そうだ。紙の良いところ、インターネットの良いところ、これらの特徴を選書担当者のはうまく活かしながら仕事をしていって欲しいな。

二：承知しました、そう言えば冒頭に出てきた書誌

以外の情報源、つまり利用者のリクエストや新聞・雑誌の書評のオンライン版はどのようなのですか？

ラ：利用者のリクエストは、以前のように紙で申し込むものもあるが、最近は同じくインターネットで申し込む機能がある図書館は多いぞ。

三：あまり人目に触れられたくない利用者さんには助かりますよね。

ラ：そうだな。あと新聞・雑誌の書評だが、これは選書とは別の次元でこれらの資料の電子化が進んでいるかどうかにかかわっている。相変わらず紙で出版されているものであれば、当時の作業と変わらない。一方、電子的に刊行されているものは、画面

で読めば良い。

一：言われてみるとどの情報源もハイブリッド化しているなあと思いました。熟練した選書担当者になるには、様々な手段を意識せねばですね！

ラ：その通りだ。技術の進歩で様々なことができるようになり、大幅に時間の節約ができています。一方、情報源も多様化し知らなくてはならないことも多くなったので、皆しっかり学んで欲しい。

二：はい、承知しました。さて、そろそろ今回も終わりですが、次回は？

ラ：書誌の種類と特徴を更に紹介していってみよう。
(よしうえ しょうえい：東北学院大学文学部)

DMがたるく

ESTRELA ■2026年6月号
No.387/6月10日発行
B5判 64ページ
定価1,205円(税込)

[特集]「経済センサス - 活動調査」:
調査の意義と利活用の展望

■「経済センサス - 活動調査」の意義と役割 — GDP推計の視点から — / 宮川 幸三(立正大学経済学部教授・経済研究所所長)

■経済センサス - 活動調査の商圏分析活用 / 市川 史祥(技研商事インターナショナル(株) 執行役員CMO)

■令和18年経済センサス - 活動調査の概要 / 総務省統計局統計調査部経済統計課経済センサス室 経済産業省調査統計グループ構造・企業統計室

公益財団法人 統計情報研究開発センター(Sinfonica)
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル 5階
TEL : 03-3234-7471 <https://www.sinfonica.or.jp/>

金融経済教育推進機構(J-FLEC)主催
「おかね」に関するコンクール
作品大募集!

お金の知識を
あなたの力に

中学生・
高校生等
対象

9月15日
締切
(消印有効)

詳しくはこちら▶▶

コンクール事務局
TEL 03-6265-6818
(土・日・祝日を除く10時~17時)




10代がえらぶ
海外文学大賞

濱口竜介 監督最新映画 原作本

〈カンヌ国際映画祭最優秀女優賞受賞〉

急に都合が悪くなる

哲学者 宮野真生子
人類学者 磯野真穂

1760円

晶文社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-11
Tel 03-3518-4940 <https://www.shobunsha.co.jp/>

わからないことはまだまだある
終わりが無いから面白い

最新の観測衛星による宇宙からの目が古代文明を解明する?!

『宝探し』と言うと怒られちゃうんですが、ワクワクしますよ。

東海大学情報技術センター研究員 恵多谷雅弘

宇宙考古学への招待
衛星データでわかったエジプト・中国古代文明

■定価 2,750円(税込)/B5判
ISBN 978-4-389-50160-0

学びと教育の未来をめざして
清水書院

田村俊作 監修 / 宮原佑介・空 良寛・長谷部涼子 著
新しい図書館でイベントを企画する

石川県立図書館の挑戦 人びとが集う図書館をどう作るか。 2970円

石井夏生利・曾我部真裕・森 亮二 編著
個人情報保護法
コンメンタール
第2版 第2巻

令和3年改正法対応。第60条から第185条までを逐条解説。 13200円

勁草書房 TEL 03-3814-6861 *価格税込
FAX 03-3814-6854

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 <https://www.keisoshobo.co.jp>

管見 最高裁判所

宇賀克也 著
A5判 定価 5,060円

最上級審である最高裁において、事件はどのように審議され判決に至るのか——。研究者から最高裁判事に転身して6年余りを務めた著者が、自身の経験も踏まえて詳述する。

管見 最高裁判所 宇賀克也

Some Reflections on the Supreme Court of Japan

公権力行使に真摯に向き合った研究者出身判事のまなざし

有斐閣

東京都千代田区神田神保町2-17 価格は税込
<https://www.yuhikaku.co.jp/>

先史から現代までの中国の姿を、最新の研究成果とともに 重版決定!

解き明かす。

新視点
The Cutting Edge of Chinese History
中国史

青木 敦・阿部幸信 編

定価3,850円(10%税込)
2026年3月刊行既刊 A5 368頁
ISBN : 978-4-634-42531-6 C0022

山川出版社
〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-13-13 <https://www.yamakawa.co.jp/>

アナル学派と歴史学の危機

歴史家は断崖を歩く

ロジェ・シャルチエ 著
川口茂雄 監訳

*A5判上製カバー370頁 4950円

歴史学は科学なのか？
フィクションなのか？

自身の歩みをたどりながら、フォーコー、セルトー、リクールらの著作を援用し、歴史家の言説を貫く真理を希求する。

ミネルヴァ書房 京都市山科区日ノ岡堤谷町 1
TEL075-581-0296 *価格税込

性暴力被害から、明日へ 新井陽子 [著]

再び歩き出すためのケア・サポート・道しるべ

●予価2090円(税込) ●ISBN 978-4-535-56455-8

性暴力とはどんなもので、心身に何が起るのか、ケアの方法や回復への道筋など、被害を受けた人にとってほしいこと。

7月上旬刊

見えないブラックホールを見る

世界をつなぐ観測プロジェクト 本間希樹 [著]

これが人類が初めて目にしたブラックホールの姿!

●定価1980円(税込)
ISBN 978-4-535-78908-1 7月上旬刊

日本評論社 〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
☎03-3987-8621 <https://www.nippyo.co.jp>